図１　保健事業（保健指導）計画作成の進め方

現状分析

全体の方向性を考える材料

国の制度、ガイドライン・教材・研修会資料
国民健康・栄養調査の調査結果
健康日本21の指標
論文・学会などで報告された新しい知見

集団全体の分析

①健診結果を把握するための項目
（健診結果等の変化、医療費の変化等）
②効果的な保健事業（保健指導）を実施しているかどうかを判断する項目
（健診受診率、保健指導対象者のうちの保健指導を実施した者の割合等）
③効果的な保健活動を実施できる体制であるかどうかを判断する項目

個人、保健事業単位の分析

①個人単位での健康度を把握するための項目
（壮年期死亡や重篤な疾患を起こした事例の詳細分析）
②保健事業（保健指導）対象者把握のための項目
（生活習慣病リスクごとの対象者数、保健指導対象者数等）

分析結果の整理

医療費、介護給付費等の負担の大きい疾病等の分析
→重点的に対策を行うべき病態や生活習慣を選定

医療費増加率、有所見率の増加が著しい疾患等の分析
→背景にある要因の考察、重点的に適正化を図る計画

属性ごとの分析
→優先的に対象とすべき性・年代を選定

環境ごとの分析
→ポピュレーションアプローチの視点も含めて計画を作成

構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）、結果・事業実施量（アウトプット）、結果（アウトカム）の分析

健康課題の明確化

目標の設定

○対象者数の把握
・健診結果と問診による対象者階層化基準に基づく対象者数
・性、年代などの属性　　など
○保健指導対象者数の概算
・情報提供
・動機づけ支援
・積極的支援
○実施すべき保健指導の量の概算
○保健指導ごとの達成目標の選定

計画の作成

○保健指導全体の計画
・保健指導ごとの具体的な方法
・人材、支援材料、実施場所
・研修
・社会資源の活用
・アウトソーシングの有無　　など
○投入予算の概算、予算の獲得
○実施計画
・保健指導の進め方（時間、期間、回数、場所、費用など）
・実施体制
・広報の方法
○評価計画
・目的
・方法
・基準
・評価の時期
・評価者
・評価結果の活用法　　など